

「県立高校改革リーディングプロジェクト推進事業」

事業報告書

学校 番号	38	学校名	八百津高等学校	課程	全日制
----------	----	-----	---------	----	-----

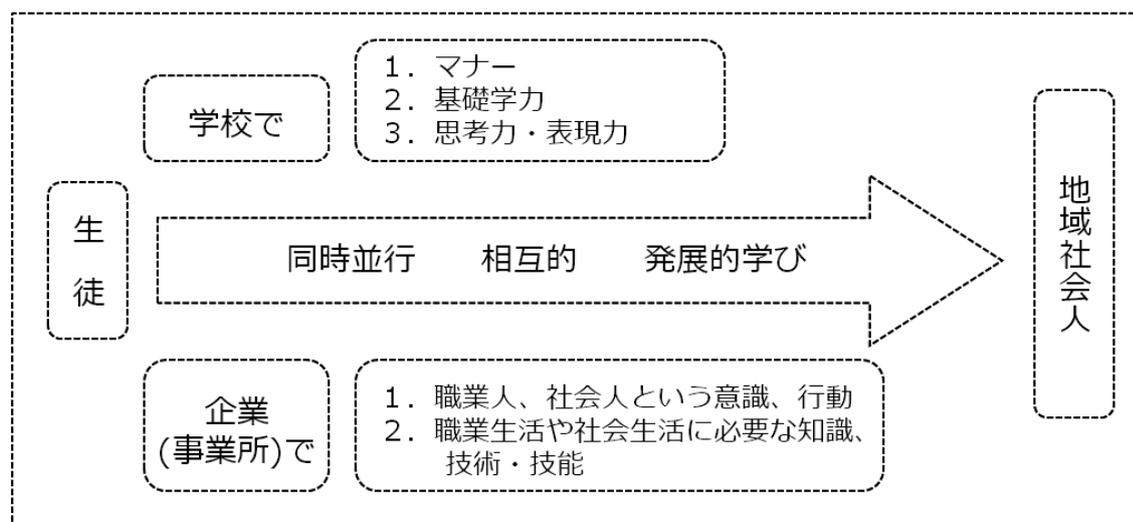
事業の名称	地域のニーズに応える特色ある普通科高校の構築 (企業実習：デュアルシステム)
-------	---

1 3年間の事業の概要

本校では、授業や部活動、登下校時等を通じてあいさつ、社会人としてのマナー、コミュニケーション能力、実践力（自分で考え、表現する、行動する）の育成に取り組んでいるが、まだまだ不十分であると日頃から考えていた。また、社会では高卒就職者の3割が3年以内に離職してしまう状況が問題となっており、望ましい勤労観・職業観の育成と適性を考えた進路選択が要請されている。

こうした課題に対する対策の1つとして、授業の中に企業や事業所等（以下、「企業・事業所」と略す）での実習を採り入れ学校で学ぶことと企業・事業所で学ぶことを同時並行でおこなう「デュアルシステム」の導入を研究した。これは「学校と企業が連携して生徒を育てる教育システム」であり、学校と企業・事業所のそれぞれの場で生徒が同時並行に学ぶことで、マナー、自己表現力、社会人意識のレベルアップをはかり、適性を考えた進路選択、ミスマッチによる離職の防止につなげたいと考えている。

企業と学校での同時並行な学び＝「企業実習」（デュアルシステム）



【目指す生徒像】

- 1) 自己肯定感を持って、意欲的、自主的に進路の選択ができる。
- 2) 目的意識を持って、意欲的に学習に取り組む。

学校で学ぶことが職場でどのように役立つか、役立てられるかを理解している。
学校での現在の学習内容と将来の職業との関係をよく理解している。

- 3) 望ましい職業観、勤労観をもっている
- 4) 社会人として必要なマナーを身につけている
職業人に必要な積極性、責任感、規範意識、あいさつ、言葉遣いなどの大切さを自覚している。
- 5) コミュニケーション能力を身につけている
お互いの人間関係（信頼関係）と協調性の大切さを自覚し、異世代とのコミュニケーション能力がいかに重要であることを体得している。
- 6) 地元の担い手としての自覚を持っている
郷土に目を向け、将来の地域社会の担い手としての自覚を持っている。

第一義的には地域社会人として活躍できる人材の育成をめざすものであるが、取り組みを通じて校内での生活指導や進路指導のあり方、日々の授業の改善をおこない学校全体への改革につなげていくものである。

2 3年間の取組（実施した内容）

25年度 デュアルシステムを普通科で導入するための基礎研究

- ・普通科高校でおこなう地域や地元企業と提携したキャリア教育の模索
- (1) 町内の空き店舗を利用し、起業を通じて地域社会で活躍できる人材の養成をめざしたが、本校の実態にそぐわず実現が難しいと判断。
→計画の見直しを実施。
- (2) デュアルシステム実施校（先進校）の視察と情報の収集
 - ・11月大阪府立箕面東高校視察 12月福島県立船引高校視察
 - ・デュアルシステム実施校の情報収集（専門高校を含む）
- (3) 研究の方向決定
 - ・企業でのインターンシップを軸に、それと学校での学習活動を組み合わせた人材育成、授業改善を進めることに決定。
 - ・「企業実習」の開始を平成28年度第2学年での実施を決定。
- (4) 職員研修の実施
 - ・デュアルシステム導入の目的、今後の方向を確認
 - ・教育課程に位置づけて実施していくことを確認

26年度 デュアルシステム導入に関する具体的な準備

- (1) 先進校（福島県立船引高校）再訪問
 - ・校内体制、教育課程や時間割の実際、生徒への指導内容の調査
 - ・成果発表会視察、実習生徒との懇談会
- (2) 学校設定教科「企業実習」、学校設定科目「企業実習」「企業実習基礎」の申請
- (3) 校内体制の整備
 - ・校内研修会の実施、準備状況の全職員への周知
 - ・船引高校のデュアルシステム担当者を招いての研修会
 - ・各分掌（特に教務部、保健厚生部、特別活動部、1学年）におけるシミュレーションの実施と課題の洗い出し

- (4) 八百津町役場、八百津町議会、八百津町商工会、個別の企業・事業所への説明と協力要請
 - ・説明用パンフレット「企業実習 趣意書」の作成
- (5) 中学校、地域社会への広報活動開始
 - ・リーフレット、ポスターの作成、配布。リーフレットは企業訪問（求人依頼）の際にも配布。
 - ・学校ホームページへの掲載

27年度 28年度本格実施に向け、前段階プログラムの開始

- (1) 実習者が受講する「企業実習基礎」の内容作成
 - ・外部講師を活用した社会人基礎力育成の授業とする。
 - ・次年度の実施に向けて「社会人基礎力講座（全5回）」27年度2年生教養コース（就職希望）を対象に先行実施し、内容の検証を実施
 - ・レポート作成に関する先進校（愛知県立豊橋商業高校）の視察、情報交換
- (2) 「企業実習」協力企業・事業所の確保と、実習内容の打ち合わせ
 - ・実習の手引書「協力企業・事業所のみなさまへ」の作成、配布
 - ・実習希望者との面談の要請
- (3) 1年生（生徒、保護者）に向けてのガイダンス
- (4) 実習者の確定
 - ・実習者向けガイダンス、実習企業との面談
- (5) 職員間の情報共有
 - ・1年学年団とデュアルシステム担当者との連携
 - ・進捗状況の報告
- (6) 中学校、地域社会への広報活動
 - ・リーフレット（27年度版）の作成、配布。リーフレットは企業訪問（求人依頼）の際にも配布。
 - ・学校ホームページへの掲載



企業面談の様子

3 成果の分析

※本格実施は平成28年度となるため、平成27年度末までの成果を分析。

◎企業訪問（求人依頼）の際にリーフレットの配布と事業概要の説明により「八百津高校ではどんな生徒を育てているのか」が可視化した。

- 平成26年度から開始したデュアルシステムのリーフレット配布により、求人依頼で訪問したいくつかの企業の方より「人材の育成に積極的な姿勢が見て取れる」、「有意義な取り組みであり、どんな生徒が育つか楽しみである」などの好感をもったコメントをいただいた。本校の取り組んでいることが第三者に可視化できたことは大きな成果である。またこの取り組みに興味を持っていただき可茂地区のコミュニティー紙「Hokkorito」にも記事が掲載された。

◎協力企業・事業所の開拓と、その後の数度の訪問で地元とのパイプが太くなった。

- 協力いただける企業・事業所は20件を超すが、協力要請、その後の具体的な説明、打ち合わせなどで1年間に数度訪問している。これにより企業・事業所担当者との意見交換がしやすくなっており、学校と地域社会とのパイプは確実に太くなった。
- 1年生のチャレンジ講座（就業体験）や各種のボランティア活動などでも、より密度の濃い意見のやり取りができるようになった。

◎「企業実習基礎」における「社会人基礎力講座」を先行実施したところ、生徒の進路意識が従来より高まっていると感じられる。

- この講座が「社会人となった時にこういう場面で必要な力だ」という具体的な目的を掲げて実施することに意を用いていたためか、年度末の進路指導部との面談では例年になく明確な展望を語る生徒が多かった。

【関連資料】

デュアルシステム
「企業実習」だより



11月1日現在、町内外22の企業・事業所の協力を得ることができています。

協力いただける企業・事業所（順不同、敬称略）

企業名	企業名
内堀鐵道株式会社	杉原千畝記念館
宏業精機株式会社	J.Aめくみの
株式会社 富信	西友八百津店
佐倉食品株式会社	Vドラッグ八百津店
株式会社 台俣製作所	フラワーハヤシ
日の丸製菓株式会社	マツオカ八百津店
株式会社 豊栄鉄工	錦津保育園
ワカムラ電機株式会社	八百津保育園
有限会社 神谷技研	和知保育園
太治会 伊佐治病院	八百津藤水園
さくらカントリークラブ	美容室 bob

手取り状態で掲載ですでお手紙をおかけしますが、よろしくお願ひします。

【企業の皆様からの声】

- *生徒へ
 - ・自分が何をしに行くのか、はっきりとした目標を持って来てほしい。
 - ・失敗を恐れるな！失敗することで成長していける。
 - ・コミュニケーションがとれば、やることが見つけられる。
 - ・実習を通じて「自分の持っているもの」を見つけ、自覚しよう。
- *学校へ
 - ・1・2年かかるだろうが、一緒に作っていきましょう。
 - ・一緒に高校を盛り上げていきましょう。
 - ・社会人として当たり前前のが分かっていない人が多い。この実習は鍛える、良い機会だと思おう。
 - ・社会と触れているという経験が大切。
- *不安

4 課題と今後の対応

◎実習生の人数について

<課題>

- ・リーディングプロジェクト評価委員会でも指摘を受けたが、デュアルシステムを学校の特色としたり地域の活性化につなげたりするためには、20～30名規模での実施が必要である。

<対応>

- ・実習生の確保については、28年度実習生の状況、本校生徒が入社している企業からの評価を紹介しつつ1年生に呼びかけていく。
- ・企業開拓については、27年度・28年度の実際の取り組み、企業・事業所の協力の状況などを資料に地道にすすめる。
- ・すでに協力を得られている企業・事業所に対しては、実習生と実習先という単線の関係に留まらないように「企業実習便り」の発行し、協力企業・事業所の横のつながりを作り、協力関係を強固にする。

◎外部講師起用のポイント

<課題>

- ・いかに確実に本校の意図した内容を実現するか。

<対応>

- ・27年度に実施した結果をふまえ、講師に対しその時間の年間における位置づけを明確にするなど具体的な打ち合わせを事前にする。

◎授業改善について

<課題>

- ・生徒のコミュニケーション能力について、1年生のチャレンジ講座（就業体験）にて実習先からコミュニケーション能力の弱さを指摘された。

<対応>

- ・異年齢の社会人とコミュニケーションをもてるようにするためには、日頃の授業の中で教員が意識し、生徒にはっきりとしたやり取りをさせる工夫を盛り込む。

5 平成28年度以降も継続する取組

◎デュアルシステムについて

- ・平成28年度、「企業実習」を開始。4月～2月まで毎週木曜日に1日実習し全29回。7月と12月には「各学期の実習を終えて」のレポート作成、9月には「実習先のここがすごい」レポート作成、1月には「改善提案書」作成、平成29年2月23日には「企業実習報告会」を実施。
- ・平成28年度、「企業実習基礎」を開始。2単位のうち毎週火曜日の3時限は社会人基礎力の育成を目的に外部講師を招いた授業を展開。なお、一部のプログラムを「社会人基礎力講座」として2年生教養コース（就職希望）の生徒対象に実施。
- ・この事業は平成29年度以降も継続して実施。

6 成果の普及（予定を含む）

◎デュアルシステムについて

- ・本年度までの事業報告を平成28年3月に本校ホームページに掲載し、周知を図る。
- ・平成28年度以降もデュアルシステムのリーフレットを作成し、中学校、地域、卒業生の就職先企業などへ配布。
- ・「企業実習便り」を毎月作成し、校内、協力企業・事業所へ配布するとともに、学校ホームページに掲載する。

7 自校の成果を他校が活用する場合の留意点等

◎企業実習の実施にあたって

- ・第1回リーディングプロジェクト評価委員会において「1年間毎週1日を割いてわざわざ校外で実習する意義は何なのか」「企業に丸投げすれば何かを得られると考えるのは無責任だ」との指摘を受けた。実施にあたっては目的、育てたい生徒像、作りたい学校像などを明確にしておくことは、生徒、保護者、企業に対して説明する際に重要である。

◎協力企業を得ることについて

- ・本校では平成13年度以来1年生全員が3日間のチャレンジ講座（就業体験）を地元の企業・事業所約50か所で実施しており、地元企業とのつながりがあることで協力要請の活動がスムーズにできた。また、地元商工会や役場、議会へも説明に出向いたことにより協力を得られ、同窓会からの協力も得られた。とにかく積極的にアプローチしていくことが必要である。企業・事業所の方のインターンシップ（期間の長短は別として）への理解は想像以上にあり、こちらの説明に熱心に耳を傾けて下さった。

◎費用について

- ・費用をあまりかけずに行うことが可能である。